第 28 回日本時間生物学会学術大会にオンライン参加して

佐藤 蓮✉
北海道大学 教育学部 生活健康学研究室

この度、学会参加記を執筆します、北海道大学山仲研究室の学部４年の佐藤蓮と申します。昨年度初めて学術大会にオンラインで参加し、学術大会がどのようなものなのかもわかっておらず、戸惑っていた記憶があります。今年度は２回目の参加で、さらに初めてのポスター発表(P-73A. Effect of daily exposure to a new cage with a running-wheel on circadian rhythms of *Period1* expression in central and peripheral clocks in mice under constant darkness)も控えていたため、良い緊張感を持って参加できました。今回の参加記では、オンラインでの参加感じたことを記したいと思います。

新型コロナウイルスのいわゆる第 4 波が落ち着きを見せていた 2021 年 11 月 20 日と 21 日に、私の住む北海道から遠く離れた沖縄で日本時間生物学会学術大会が開催されました。前回大会はオンラインのみの開催でしたが、今回は現地とオンライン両方でのハイブリッド開催となりました。ぜひ沖縄に行きたかったですが、道外に出ることへの不安を抱えていたためにオンラインでの参加を決めました。

初日の朝 9 時、私は研究室でパソコンに向い、Zoom を立ち上げました。前回大会とは異なり、Webinar 形式でした。誰かのマイクが急にオンになるなどのアクシデントが起こらなかったので、2 日間を通してストレスを感じることなく参加ができました。私は今まで対面の学術大会に参加したことがありませんが、発表スライドは Zoom の方が見やすいのではないかと思います。また、ラボメンバーがすぐそばにいるので、気になった点があればすぐにラボメンバーとディスカッションできるという点は、オンライン参加故のメリットと言えるのではないでしょうか。さらに、同時進行しているシンポジウムの行き来がしやすいこともオンライン参加の良い点かと思います。現地では会場から会場を歩かなければならないところを、ワンクリックで移動できてすぐにシンポジウムを聞けるのは技術の進歩を感じます。ただ、Webinar 形式だからだったのか、現地の参加者が多かったからなのか、Zoom での質問がほとんど拾われなかったことは少し残念に思ってしまいました。

ポスターは第 27 回学術大会と同様クラウドにアップされ、時間を気にせずじっくりと閲覧することができました。情報漏洩の観点からは難しいことなのかも知れませんが、今後新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、学術大会が現地のみで開催されるようになってもクラウドにもアップロードしておく形は残してもいいのではないかと思います。私のポスター発表は Zoom で行われました。自分の発表ルームに入った時は、発表への緊張と自分が取り組んできた研究の成果を初めて発表できる興奮が入り混じった状態でした。同時に、誰も自分の発表に来てもらえなかったら悲しいなという不安も感じていました。不安は的中し、発表時間中の 1 時間は誰も来てもらえず、悲しみと孤独で心が折れそうでした。私の発表の後枠の方はオンラインでの発表ではなさそうでしたので、根気強く待ちました。すると、早稲田大学の原田先生と京都府立医科大学の田宮先生のお二方が来てくださり、私の拙い発表を最後まで聞いてくださり、質問もたくさんいただきました。最後にはお二方ともから「面白い」と言っていただき、非常に嬉しく感じたことを鮮明に覚えています。同時に、現地参加がメインとなる学会でのハイブリッド開催においては、現地の学会会場とオンライン会場との相互交流が難しいように感じました。

最後に、現地での参加の方がほとんどであったにも関わらず、オンラインでの参加も可能にしてくださった大会関係者の皆さまには心から感謝申し上げます。次回の宇都宮での大会は、現地で参加し、多くの先生方とディスカッションできることを願って、私の参加記の結びとさせていただきます。

✉ ren0119seigoro@eis.hokudai.ac.jp